

## 「北海道医療大学歯学雑誌」投稿の手引き（2008年5月13日現在）

本学会誌の体裁を統一するために、「投稿の手引き」に準拠して、ご執筆下さいますようお願い致します。

原稿はすべてA4版とし、下記の項目1)～7)のすべてを、2部提出して下さい。査読後、論文掲載が認められた際には、和文抄録、英文抄録、本文について、フラッシュメモリーまたはCD-R/RW（フラッシュメモリーが望ましい、印刷終了後にお返しします）を投稿原稿とともに提出して下さい。なおディスクには、使用したOS、ワープロのソフト名とファイル名を記載して下さい。

- |                                 |          |
|---------------------------------|----------|
| 1) 投稿原稿表紙                       | 5) 図表説明文 |
| 2) チェックリストシート（著者全員分のサインと連絡先を記載） | 6) 表     |
| 3) 英文抄録（ABSTRACT, 英文表題を含む）      | 7) 図     |
| 4) 本文                           |          |

## 1. 投稿原稿表紙

表紙には以下の事項を和文および英文で記入する。

- |                |                               |
|----------------|-------------------------------|
| 1) 原稿の種類       | 5) 著者の所属および所在地                |
| 2) 表題          | 6) 別刷数（50部単位）                 |
| 3) 著者名         | 7) 連絡先（郵便番号、住所、電話、Fax、e-mail） |
| 4) キーワード（5語以内） |                               |

## 1) 表題

- (1) 一般固有名詞として通用していない商品名は用いない。
- (2) 和文表題には、原則として略号以外の英文字を用いない。スペースも含めて35字以内のランニングタイトルを付ける。
- (3) 英文表題は和文表題の内容と一致させる。文頭のみ大文字とし、他は小文字とする。また、スペースも含めて45字以内のランニングタイトルを付ける。
- (4) 副題はできる限り用いない。ただし、必要な場合は次の例に準拠する。続報、第2報などの表記は認めない。

和文・英文：-□□□□□□□□-

## 2) キーワード

5語以内のキーワードを付ける。英文の場合は、キーワードの先頭のみを大文字とし、他は小文字とする（例：Impression materials, Bone morphogenetic proteins）。

## 3) 氏名および所属

- (1) 英文氏名（和文）は、姓は大文字、名は先頭のみを大文字とする（例：Akira YAMADA（山田 昭） and Taro HOKKAI（北海太郎））。
- (2) 著者の所属が2ヶ所以上の場合には、所属の著者に<sup>1), 2), 3)</sup>を付ける。

## 2. チェックリストシート

チェックリストの指示に従い、投稿原稿を確認する。

著者全員分のサインを取り、連絡先を記載する。

## 3. 抄録

300語以内の英文抄録を付ける。本文が和文の場合には、抄録の和訳も記載する。

## 4. 本文

- 1) 原稿はA4判用紙にワードプロセッサなどによる横書きとする。原則として12ポイント文字を使用し、1頁35文字×30行とする。句読点は「. 」と「, 」を用いる。英文の場合は、ダブルスペースとする。
  - (1) 提出メディアに、使用機種名、OS名、ソフト名、所属、著者名を明記する。
  - (2) 著者がテキストファイルへ変換できる場合は、変換したファイルを提出する。
- 2) 原稿の下段中央にページ番号を記す。
- 3) 論文の原則的な構成は、緒論（緒言）、方法（材料および方法）、結果、考察（結果および考察）、結論（結論語）、謝辞、文献、図の説明、図表とする。

4) 見出しを用いるときは次の順に項目をたてる。

3 → 3) → (3) → a → a) → (a)

5) 文章は、専門用語を除いて、常用漢字、新かなづかい、ひらがなは口語体とする。

6) 数字はアラビア数字とし、単位の記号はJIS・Z8202およびZ8203に準じ、国際単位系(SI)を使用するよう努める。また単位にピリオドをつけない。(例：GHz, MPa, kW, cm, mV, μm, nA, pF, mL, mmol, N (kgf), K, °C, min)

7) 学術用語は、原則として「文部省学術用語集」に準拠する。

8) 商品名、器械名などは、可能な限り一般化されている「カタカナ書き」とする。英文字で表す場合は、かじら文字のみ大文字にする。

9) 外国の人名などの固有名詞は原則として原綴とする。

10) 連続した数値は「,」でつなぎ、最後に単位をつける。(例：10, 20, 30°C)

11) 製造社の表記法は( )内に会社名のみを記し、社製および製作所、工業社製、株式会社などを入れない。

例：(型式名, 製造会社名), (略号, 製造会社名)

(X-3010, 日立) (EPMA, 日本電子)

12) 図表の挿入場所を本文右欄外に朱書きする。

## 5. 文献

1) 文献リストは、アルファベット順(A, B…Z順)で作成する。また本文中の引用箇所以下に以下の体裁に従い、文献内容を記載する。

例：単著者 (Izumi, 1999) (和泉, 1999), 2名 (Izumi and Ito, 1998) (和泉, 伊藤, 1998), 3名以上 (Izumi et al., 1970) (和泉ら, 1970), 2編以上 (Sato et al., 1988; Izumi, 1999) (佐藤ら, 1988; 和泉, 1999)

※「,」「;」の様な記号は、日本文の場合全角を、英文の場合は半角を使用する。

2) 文献として不適当なもの、例えば未公表のデータや私信などは文献として引用しない。

3) 文献の著者または編集者が複数の場合にはet al., 他などとせず、その全部を記載する。

4) 著者名が欧字綴の場合は姓の後に名前の頭文字をつけ、また著者が複数の場合は最後の著者の前にandを入れる。

5) 文献の記載方法の基本は次のとおりとする。

### (1) 雑誌の場合

著者名(複数の場合、氏名を「,」で区切る.)。表題-サブタイトル-。雑誌名 巻：引用ページの始めと終わり, 発行年。

例：Izumi H. Functional roles played by the sympathetic supply to lip blood vessels in the cat. *Am J Physiol Regulatory Integrative Comp Physiol* 277 : R682-R689, 1999.

Izumi H, and Ito Y. Sympathetic attenuation of parasympathetic vasodilatation in oro-facial areas in the cat. *J Physiol (Lond)* 510 : 915-921, 1998.

Izumi H, Ito Y, Sato M, Karita K and Iwatsuki N. The effects of inhalation anesthetics on the parasympathetic reflex vasodilatation in the lower lip and palate of the cat. *Am J Physiol Regulatory Integrative Comp Physiol* 273 : R168-R174, 1997.

### (2) 単行本の場合

#### i) 章を参考にしたとき

例：Weinstein L, Swartz MN. Pathologic properties of invading microorganisms.

In : Sodeman WA Jr, Sodeman WA, editors. *Pathologic physiology : mechanisms of disease*. Philadelphia : Saunders, 1974, p457-472.

#### ii) 個人または複数の著者の場合

例：Colson JH, Armour WJ. *Sports injuries and their treatment*. 2nd ed. London : S. Paul ; 1986.

#### iii) 編集者, 監修者が著者の場合

例：Diener HC, Wilkinson M, editors. *Drug-induced headache*. New York : Springer-Verlag ; 1988.

#### iv) 団体, 組織が著者で, かつ出版社の場合

例：Virginia Law Foundation. The medical and leagal implications of AIDS. Charlottesville : The Founda-  
tion ; 1987.

v) 会議録全体を参考にした場合

例：Vivian VL, editor. Child abuse and neglect : a medical community response. Proceedings of the First  
AMA National Conference on Child Abuse and Neglect ; 1984 Mar 30-31 ; Chicago. Chicago : Ameri-  
can Medical Association ; 1985.

(3) 分担執筆の場合

分担執筆者名：分担執筆の表題. 書名巻など, 発行所名：発行年, 引用ページの始めと終わり.

例：山田早苗：橋義歯の力学－傾斜歯ブリッジの形成と設計について－. 新臨床歯科学講座 3, 医歯薬出  
版：1978, 157-165.

(4) 翻訳書の場合

著者（翻訳者）：書名（原著書名）. 発行所名：発行年, 引用ページの始めと終わり.

例：Davidge RW（鈴木弘茂, 井関孝善）：セラミックスの強度と破壊（Mechanical behavior of ceramics）.  
共立出版：1982, 34-55.

## 6. 図

- 1) 用紙はA4版とし, 1枚ずつ別葉にする.
- 2) 各葉杖に, 図の番号, 著者名, 片段あるいは両段の指定, カラー印刷の有無を明記する.
- 3) 図の大きさは, 片段か両段一杯になることがのぞましい. 刷り上がりを想定して, 図の大きさが片段で横幅45-68mm, 両段で100-150mmになるように縮小コピーし, 文字, 記号の大きさ, 線の太さなどをチェックする. 棒グラフなどのハッチングは識別可能なものにする.
- 4) 図中の文字は, 刷り上がりで本文とほぼ同じ10-13級（7-9ポイント）, 線の太さは0.15-0.3mmになるよう原図を作成する.
- 5) 図のタイトルおよび説明は, まとめて, 文献の後につける.
- 6) 組図の原稿は, 貼込み間隔や角度を正確にする.
- 7) 写真は, A4判の用紙に貼り, 必要な文字, 記号などを記入する. 写真の拡大率は, 単位長さのバーで表す.
- 8) 患者の顔や特徴ある身体の一部の写真を使用する場合は, 目隠し等により個人が特定できないように配慮するとともに, 患者本人あるいは後見人から文書により許可を得ること.
- 9) 記号は中心の明確な○●□■◇◆などを使用する.
- 10) 記号を使用する場合の凡例は, 脚注に置かず図中に入れる.

## 7. 表

- 1) 罫線はできる限り入れない.
- 2) 標準偏差は, ( ) もしくは±とし, 信頼区間との混同を避けるために説明を入れる.
- 3) 表題が英文字の場合は書き出しのみを大文字にし, それ以後は小文字とする. しかし略号はこの限りではない.
- 4) 単位などの表記は同一言語に統一する. 単位 (unit), 平均 (mean), 標準偏差 (SD)

(例：)

**Table1** Mechanical properties of specimen

specimen	Tensile strength Mpa	Elongation %
A	500 (20)	10.2 (3.3)
B	300 (15)	5.4 (2.3)

( ) : SD

**表1** 試料の力学的性質

試料	引張強さ Mpa	伸び %
A	500±20	10.2±3.3
B	300±15	5.4±2.3

平均±標準偏差

## 8. その他

本規定ならびに「投稿の手引き」に規定されていない事項については, 編集委員会にお尋ね下さい.

投稿の手引き, 投稿規定, チェックリストのファイルは, ホームページ (<http://www.hoku-iryu-u.ac.jp/~physiol/>) からダウンロード出来ます.

## 北海道医療大学歯学会抄録原稿作成要領

B5版の用紙を用い、タテ19cm・ヨコ13cmに納まるようにパソコンを使って作成してください。文字は明朝体で12ポイントを使用してください。

なお、抄録は以下の例にしたがって、

1. 演題名
2. 発表者氏名：演者の前に○印をつけてください。
3. 所属：発表者の所属が2つ以上の場合は、アスタリスク（\*）で所属を区別してください。
4. 本文：一般発表の場合は、【目的】、【方法】、【結果および考察】、【結論】の順で、症例発表の場合は【目的】、【症例】、【結果および考察】あるいは【経過および考察】、【結論】の順で記載してください。

4日目歯垢における緩衝能の口腔内部位特異性について  
○福田 敦史, 広瀬 弥奈, 八幡 祥子, 松本 大輔, 五十嵐清治  
北海道医療大学歯学部口腔構造・機能発育学系・小児歯科学分野

**【目的】** 齲蝕の発生には部位特異性が認められていることは疫学的に明らかである。その原因の…

**【方法】** 実験に先立ち、本研究への理解と同意の得られた成人被験者15名に対し、PMTC後に4日間口腔清掃を…

**【結果および考察】** 歯垢の初期pHには有意差が認められ、危険率0.01%でLALが最も高く、UABとLPBが…

**【結論】** 齲蝕の発生には部位特異性が認められていることが科学的に証明され、LPBが最も齲蝕誘発能が高く、…